

はじめに

自然に妊娠することを希望する方がほとんどですので、体外受精(IVF)や顕微授精(ICSI)に抵抗を感じてしまうのは仕方がないと思います。なかなか妊娠に至らない原因のひとつとして考えられるのは、精子と卵子が卵管の中でうまくめぐり合っていないということです。そこで、なかなか自由恋愛をしてくれない卵子と精子に出会いの場を提供するのが体外受精です。つまり、クリニックでお見合いをして頂くということです。ただし、精子がある一定の濃度と運動率を満たしていないと、体外受精で卵子とカップリングすることが出来ません。そこで、精子を1個選んで、卵子の中に直接注入して受精させるのが顕微授精です。これらの生殖補助医療(ART)は急速に全世界に普及しており、日本でのARTによる累計出生児数は38万人を突破しています。年間の出生児数は4万人を超え、その年の出生児数の24人に1人がARTにより誕生したことになります。

適応

・体外受精(IVF)

- 1: 卵管性不妊症
- 2: 子宮内膜症
- 3: 免疫性不妊症
- 4: 原因不明不妊症
- 5: 免疫性不妊症
- 6: その他(年齢により妊孕性が低下しているなど)

・顕微授精(ICSI)

- 1: 重症乏精子症、精子無力症、精子奇形症およびその合併症
- 2: 不動精子の症例
- 3: 精巣上体精子または精巣精子による受精
- 4: 精子もしくは透明帯/卵細胞貫通障害
- 5: 抗精子抗体 陽性

当院では自然周期にて体外受精、顕微授精を行っています。

完全自然周期 — 排卵誘発はせず、卵胞の成熟度を見極めて採卵します。来院回数は移植日を含め5回前後です。

自然周期 — 経口排卵誘発剤のみ、または注射薬 (HMG) を少し加えて卵胞の成熟度を見極めて採卵します。来院回数は移植日を含め6回前後です。

自然周期と刺激周期の比較

利点

自然周期 — 毎周期採卵可能・良好卵が多い・注射薬は必須ではない・局所麻酔でよい・卵巣過剰刺激症候群など合併症が少ない・コストが抑えられる

刺激周期 — 決まった日に採卵できる・1度の採卵数が多い・1回当たりの妊娠率がやや高い

欠点

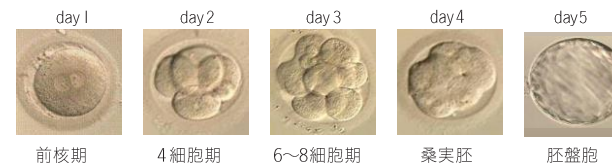
自然周期 — 決まった日に採卵できない・1回当たりの妊娠率がやや低い・1度の採卵数がやや少ない・排卵してしまったり、卵子がないことがある

刺激周期 — 2~3ヶ月毎にしか採卵できない・卵の質が低下する可能性がある・局所麻酔は難しい・卵巣過剰刺激症候群などの合併症のリスクがある・コストがかかる

採卵～胚移植まで

- 1: 経膈超音波下にて、採卵します。約5分で終わります。
- 2: 精子は採卵当日の朝、採取になります。
- 3: IVF・・・採卵後、卵と調整した精子を一緒にします。
ICSI・・・精子を1匹選び、不動化し、卵細胞質内に注入します。

- 4: 培養・・・子宮内に近い環境下で培養します。



- 5: 胚移植・・・受精した胚を2日目~5日目の間に、子宮の中に戻します。胚移植の個数は原則1個としています。また、胚の凍結保存を行うこともできます。

※採卵・移植当日はお子様連れでの来院はできません。

妊娠率—患者さんの状況(年齢など)によって異なりますが、当院は25%前後になってます。

流産率—着床しても20~30%は流産の可能性があります。

また、まれに子宮外妊娠が起こることがあり、特に卵管に異常を持つ方に多い傾向があります。

多胎率—移植数は原則1個としているため、多胎になる可能性は低いです。

Price

体外受精(自然周期)

採卵料	初回	¥200,000
	2回目以降	¥170,000

顕微授精(自然周期)

採卵料	初回	¥250,000
	2回目以降	¥220,000

採卵して卵子が無かった場合 ¥55,000

新鮮胚移植 分割胚 ¥60,000
胚盤胞 ¥80,000

融解胚移植 (アシステッドハッチング含む) ¥85,000

アシステッド ハッチング ¥25,000

※上記は全て消費税抜きの金額となっております。

最後に・・・

通水検査、卵管造影などで、卵管の通りを改善させたり、子宮内精子注入法でより多くの精子が卵子と巡り逢えるチャンスを増やしたりするのが内科的治療と考えると、ARTは体の外で受精のお手伝いをする外科的治療とも言えます。体外受精・顕微授精に関しては、いまだに大量の薬を使って卵子を成長させる刺激周期が主流となっていますが、陣内ウィメンズクリニックでは体のことを考え、なるべく卵巣に負担をかけない自然周期を中心に、一人ひとりに合う方法を考えて高度生殖補助医療(ART; Assisted Reproductive Technology)を行っています。